

女性漁業者としての漁業経営

嘉手納町漁業組合遊漁船業部会
部長 国吉康子

1. 地域の概要

嘉手納町は、沖縄県本島中部に位置している。

かつて琉球王国が中国を中心に東南アジアと大交易を行っていた西暦1605年、中国福建省から甘藷(任)を持ち帰り、戦前戦後の食糧難を飢餓から救った産業の3大恩人のひとり「野國總管」の生誕の地であり、甘藷発祥の町である。

町域の83%が嘉手納飛行場をはじめ米軍用地に占有されている。

嘉手納町の昭和25年以降の人口の動きをみると、昭和30年から40年にかけて、基地への就業や基地からの稼得を求める人々の転入が相次ぎ、人口が急激に増加していたが、昭和40年の14,392人をピークにやや減少傾向に転じ、平成7年には、13,752人となっている。

産業構造は、平成7年は、第一次産業に144人(2.7%)の就業者、第二次産業に1,253人(23.3%)、第三次産業に3,989人(74%)となっている。

嘉手納町のイベントは、旧暦5月4日(ユカヒ-)の頃に行われる「嘉手納ハーリー」。7月上旬に、比謝川に清流を取り戻す目的で行われる「YOU. 遊. 比謝川」。旧暦の7月16日に、新町通りで行われる「エイサー広場」。さらに10月上旬、野國總管の遺徳を偲び、町民文化の発展をめざして行われる「野國總管まつり」がある。特に、私たちの漁業組合が中心となる「嘉手納ハーリー」は海事の安全と豊漁を願い、職域ハーリー、子供ハーリー、外人ハーリーなどが行われ、年々、観客も増え活気を呈している。

2. 漁業の概要

平成8年の嘉手納町漁業組合員総数は30人、そのうち正組合員数10人、準組合員数20人であり、女性の正組合員は私1人である。

登録漁船は39隻で、そのうち動力漁船の3トン未満船は29隻、3~5トン船は9隻、5~10トン船は1隻、無動力船は2隻となっている。そのうち遊漁船兼業は7隻である。

漁業種類は、刺網漁業、延縄漁業、イカ釣漁業、採貝漁業、潜水器漁業及び一本釣漁業が行われている。

水揚げされる魚種は、たい類、ぶだい類、ひらあじ類、しいら、たかさご類、イカ類等があり、水揚げ量は、年間21トン、2千万円の売上げになっている。

3. 組織の概要

私の所属する嘉手納町漁業組合は、任意組合で、これまでいろいろな経緯をたどってきたが、組合員は、心をひとつにして組合の強化に取り組んでいる。その中には遊漁船業部会があり、7人の部会員がいる。遊漁船の組合への加入当初は、漁業による水揚げ高が少なく組合に対するメリットがないということで苦情もあった。しかし、決められた会則に従って年間水揚げ高を達成することと、遊漁収入の5%を協力費として漁業組合へ納めるという取り決めがあっ

て漁業専業者との関係も良好となっている。

それ以外には部会には、申し合わせ事項として、特に釣り客へ「空き缶、ビニール等のごみを海への投げ捨てはしないさせない」等のマナーの徹底。また、他の漁業者の迷惑となるような駐車の問題等のトラブルが生じないように気を配っている。

4. 活動課題選定の動機

私は、高校卒業後、美容師として働いてきた。漁業者になったきっかけは、子供の頃から海が好きだったということも幸いし、釣り好きの主人と知り合い結婚を契機にますます釣りに関心を持つようになった。主人の紹介で釣りクラブにも入会した。そして大会にも参加し、初挑戦でグルクン（たかさご）釣りの部で150人中7位という好成績をおさめた。このようなことを契機に、私はプロの漁業者になって身を立てることを決心した。

そこでまず、4級船舶操縦士の資格を取得した。

私には、高校1年生の長男をはじめとして中学2年生の長女、小学4年生の次男、小学3年生の三男の子供が4人いる。家事や子育てをおろそかにする訳にはいかず、遊漁船の場合は、お客様にもよるが、だいたい、早朝7時出港で、帰港が夕方5時になり、それも土、日の割合がもっとも多く子供と休日過ごす機会がほとんどない。しかし、平日の時間帯には、できるだけ子供たちと接する機会をつくっている。そのため日帰りが基本的条件となる。

この仕事は主人と子供たちの理解と協力がなければ両立しない。

現在はレジャーの需要が高まり、遊漁船への従事割合も高くなってきており、船を大きくし、安全操業と高速性が求められてきたことから、どうしても1級船舶操縦士の資格がかかせなくなり、そこで1級船舶操縦士の免許を取得した。

女性漁業者は、沖縄県下でも数えるしかないと思う。しかも船を操って操業するのは私だけかもしれない。私は、女性でも男性と肩を並べて十分にやっいていける自信がある。そして、最近では漁業は何も男性だけの仕事ではないと思うようになった。私のような一女性が漁業者として地域の漁業を支えていく力になっていることを知ってほしい。

5. 実践活動の状況

私はアカジン（すじあら）及びシチューマチ（あおだい）等の一本釣り漁業をやりながら、釣り案内の遊漁船業もやっています。漁業をはじめから13年になる。遊漁船業の兼業は5年になります。所有漁船は「孝真丸」という6.6トンの船です。最近GPSやレーダー、魚群探知機等電子機器のめざましい発達で自分の位置や漁場の位置など瞬時に確認でき、気象情報も常時入るので女性でも漁具や漁法の知識さえあれば漁業者として十分やっいていきます。次に私が主対象としているアカジンとシチューマチについて少し紹介します。まず、アカジンについてですが、サンゴ礁域が住み家で、小魚やカニ、エビ等が好物で、刺身にして最高においしく、魚の中では一番の高級魚です。釣り方は、一本釣りでグルクンを釣って生き餌にし、海底から2~3mのところにおろし、アタリを待つが、サンゴ礁の穴場などが住み家で餌を喰わえたら、巣穴に逃げ込みますので、アタリがあつたらやや強引に取り込まなければなりません。それかもちもたしていたら、巣穴に逃げ込まれ、引き出すのに容易ではない。それからシチューマチですが、漁具は一本釣りで、一本の道糸に枝（釣針）を約10本つけ、餌はサバかムロを切り身にして、曾根の水深150~200mの岩場でアンカーを入れて操業する。周年釣れ、特に冬場がよく釣れます。よく肥えていて、

肉量は多く高級魚で、2～3kgまで成長する。詳しくは後の添付資料を参照して下さい。以下、私の漁業経営収支内容を平成9年度の後半期について紹介します。なお、添付資料表1の損益計算書より損益分岐点を求めると、

$$\begin{aligned} \text{損益分岐点} &= \frac{\text{固定費}}{1 - \frac{\text{変動費}}{\text{売上高}}} = \frac{426,291}{1 - \frac{391,577}{1,212,575}} = \frac{426,291}{1 - 0.32} \\ &= 626,898\text{円} \end{aligned}$$

と、余裕ある経営が推察されると思います。損益分岐点626,898円はこれだけの売上げでは利益もなければ損失もない分岐点で、この数値をけっして高いとは思いません。しかしながら、添付資料表2の家計費からみても、漁業収入だけでは生活できません。そのため兼業や複合経営がどうしても必要になります。もうひとつ経営安全率をみてみると、

$$\begin{aligned} \text{経営安全率} &= \frac{\text{売上高} - \text{損益分岐点売上高}}{\text{売上高}} \times 100 \\ &= \frac{1,212,575 - 626,898}{1,212,575} \times 100 = 48.3\% \end{aligned}$$

と、40%以上を示しているので、経営は成り立つことがわかります。

6. 波及効果並びに今後の課題

これまで紹介した実践活動を通して、女性漁業者として十分やれるということが、ご理解いただけたと思う。今後は、部会の活性化に努力を重ね、組合を盛り上げる大きな力になっていきたい。

私は女性であっても決して骨惜しみせず男性部員と共に頑張りたい。

現在、県内での女性漁業者はわずかかもしれない。しかし、男女が共に働く場所としての漁業が社会的に理解され、さらに女性従事者が増えることで漁業振興にもつながり、また、後継者育成にも十分役立つと思う。

そのためにも①「現在、行われていない婦女子への漁業技術指導体制の確立」②「きつい、きたない、危険の3Kを排除するためのイメージアップ作戦」③「男子主体となっている水産教育を婦女子へも開放し、交流学习の機会も強化する。」などの積極的展開が必要だと思う。

またこれからは、漁獲された魚で小さいのは再び海へ帰し、人工種苗も放流するなど、資源を大切にす資源管理型漁業の推進が必要である。

私は、今後も一女性漁業者として技術の向上を努めるとともに地域の漁業組合の一員として将来の漁業振興に貢献していく所存です。

表1 損益計算書
(平成9年7月1日~平成9年12月31日)

		金額	固定費	変動費
A漁業収入		1,212,575		
漁業 経営 費	手数料	64,005		64,005
	水代	63,000		63,000
	雑費	24,300		24,300
	燃油	105,260		105,260
	漁具	19,770		19,770
	船具	14,850	14,850	
	食糧	34,300	17,150	17,150
	餌料代	76,000		76,000
	船体修理	39,200	39,200	
	機関修理	330,000	330,000	
	機器修理	3,000	3,000	
	通信費	4,000	2,000	2,000
	その他	20,183	10,091	10,092
B合計		797,868	426,291	391,577
A-B漁業所得		414,707		

表2 家計費

水揚金額	1,212,575
漁業経費	797,868

差引漁業所得	414,707
家計費	1,748,241

差引経済余剰	△1,333,534
--------	------------

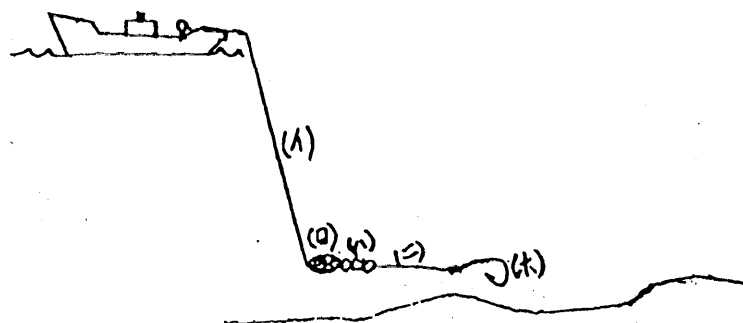
家計費内訳

漁業収入	414,707
前期繰越	1,402,692
給料その他	753,930

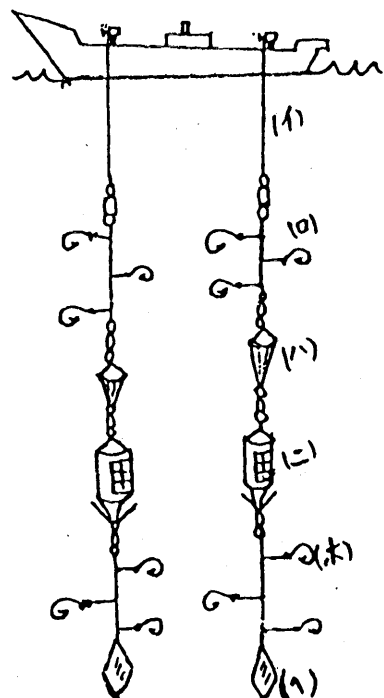
収入合計	2,571,329
食糧	494,321
光熱費	73,228
保険費	32,020
教育費	235,005
交際費	166,240
その他	747,427

支出計	1,748,241
-----	-----------

差引残高	823,088
------	---------



アカジン (すじあら) 曳縄漁具の一般構成図



アカマチ (はまだい) 釣漁具の一般構成図

<漁具の仕様>

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	ナイロンテグス	20~24号	1	
ロ	中通しオモリ	ナマリ	40~80号	1	
ハ	クレンサルカン	真ちゅう		1	
ニ	ハリス1.5m~2m	ナイロンテグス	16~20号	1	
ホ	クエバリ	鋼	22~26号	1	

<漁具の仕様>

符号	名称	材質	規格・寸法	数量	備考
イ	道糸	テトロン	10~15号 (500m以上)	1	
ロ	サビキ			1	
ハ	集魚ライト	プラスチック		1	
ニ	エサカゴ	プラスチック			
ホ	グレバリ	鋼	12号	12	
ヘ	オモリ	鉛	200~350号	1	

嘉手納町漁業組合の年度別水揚状況

年 度	生産量 (トン)	生産額 (千円)
平成6年度	21トン	20,000千円
平成7年度	21トン	19,000千円
平成8年度	21トン	19,000千円

漁業による水揚状況 (国吉氏の実績)

年 度	生産量 (トン)	生産額 (千円)
平成6年度	2.8トン	2,500千円
平成7年度	2.4トン	2,160千円
平成8年度	3.3トン	3,000千円

遊漁船業による水揚状況 (国吉氏の実績)

年 度	回 数	生産額 (千円)
平成6年度	35回	2,100千円
平成7年度	39回	2,340千円
平成8年度	41回	2,460千円